

第9号

【編集発行】

栃木市文化活動協議会

住所: 栃木市万町9番25号
栃木市教育委員会
事務局文化課内
TEL: 0282-21-2496
FAX: 0282-21-2690

【題字】 田中 曉亭氏

文協とちぎ



『雪原遊水池』

元気で楽しく文化活動を



栃木市文化活動協議会

会長 寺澤 保之

昨年は、栃木県文化振興大会が栃木市と壬生町の合同で、栃木市を会場に行われました。会員及び関係者の皆様には、普段の活動の外に大きな事業に携わって頂き、誠に有難うございました。今年度は、通常に戻り、各地区の文化活動やボランティアに励んでいきたいと思います。また、元気に頑張っていきたいと思います。

団体によつては、高齢化により、活動を継続することも大変になってきているというのを耳にします。

昔をさかのぼれば、人生50年と言われた時代がありましたが、今は人生80年90年の時代です。社会においては定年も延びており、文化活動やボランティアへの参加が難しいのではないかと思います。その分、私たちが頑張っていれば、文化活動に興味を持つ若い人が増えてきてくれるのではないかと思います。私たちも、機会があれば若い世代の行事、例えばマルシェ等に参加して、一緒になってコミュニケーションをとっていけば今後の文化活動も、いい方向が見いだされてくるのではないかと思います。

今の活動を大切にし、仲間を大切にし、文化活動協議会をも大切にして頂ければ幸いです。まずは、自分たちが楽しんで、感動して、いい文化を残して行ければ、次の世代も育ってくれると思います。

令和7年度 とちぎ文化のつどい

令和8年3月7日(土)〜令和8年3月8日(日)
とちぎ岩下の新生姜ホール 大ホール・展示室

栃木文化団体連絡協議会

栃木県芸術祭

「いけばな展・茶会」

昨年度は栃木県文化振興大会が栃木市で開催され、皆様方には大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

今般は、栃木県文化協会主催による第79回栃木県芸術祭の一環として「いけばな展・茶会」が、令和7年10月11日(土)、12日(日)の両日とちぎ岩下の新生姜ホールを会場に開催され、全県下からの参加を得て盛会となりました。栃木市文化活動協議会も共催しました。

いけばなの展示会場は、それぞれに作者の趣向を凝らした作品が並び



観覧者の目を引きつけていました。期間中には、大川栃木市長・青木教育長も来場され、熱心にご観覧して頂きました。

茶会では、3箇所に茶席を設けて抹茶を点てる点茶が行われました。さらには一般の来場者向けに「呈茶席」が設けられ、多くの来場者が一服の茶の世界を味わうことができました。

昨年度の文化振興大会時から今日まで、事前の準備怠りなく、とりわけ栃木市茶華道協会の皆様方には、一方ならぬ尽力をいただきました。関係各位の皆様、ありがとうございました。

文：大塚 昌峰
広報委員：白井 薫苑

大平文化協会

大平町清水寺御詠歌継承

天台宗叡山流 清水寺支部

清水寺の沿革

清水寺の開基は行基菩薩で天平11年と伝えられています。

大同元年頃、国司によつて堂塔や坊舎が新築された。天慶10年藤原秀郷が平将門を討伐した際、堂塔を再建したが、その後兵火により焼失している。江戸時代の慶安2年徳川幕府により観音堂領として御朱印地十石を賜り、時の住職亮円により堂塔が再建された。現在の本堂は平成7年の建立である。

観音堂は下野三十三観音霊場二十六番札所となっていて、堂内には本尊の十一面千手観世音菩薩(県指定文化財)が安置されている。

境内は憩いの場に整備され、東国花の寺百ヶ寺の寺院としてロウバイ・紫陽花・しだれ桜・彼岸花・紅葉が

年間を通して咲き誇っている。

現在の活動

清水寺では約13年前に檀徒の有志(女性・5名)によりご詠歌の会を発足指導者は住職



夫人がこれを担って来ました。

練習は月2回、毎月各週の金曜日の夕刻に和気藹々ながら真剣に研鑽を続け

ています。毎年、栃木県内外の研修会や大会等にも積極的に参加するなど努力を重ねております。

清水寺が年中行事として実施している大般若転読会(1月)や施餓鬼会(7月)の際には、僧侶の入堂・退堂の時に御詠歌をお唱えし、多くの檀徒の皆様の前で披露をしています。

御詠歌の由来

御詠歌とは仏様の教えや仏様への感謝の気持ちを和歌の形式に乗せて美しいメロディを付けて唱える仏教音楽です。日本では平安時代から伝えられてきたようです。

鈴鉦(れいしょう)を用いて穏やかで優しいリズムと共に詠われるのが特徴です。

仏教の各宗派により流派が異なりますが、清水寺支部では伝教大師(最澄)の教えを基盤として厳かで格調高い曲調が特徴の天台宗叡山流をお唱えしております。

広報委員：伊吹 和矢

西方城には三つの特徴があります。一つ目は、深い堀や高い切岸を築いていること、二つ目はそれらを巧みに組み合わせる通路を屈曲・複雑化し、横矢をかけやすくしていることです。そして三つ目は枳形虎口を多用していることです。特に、南西の尾根に対して開く虎口は、小規模ながら土橋を渡って三度向きを変えるという厳重なものでした。高度な築

のかもしません。



鶴が翼を広げた形に見える

西方文化協会

西方城に思いを馳せて

栃木市の北に位置する西方。そこには、かつてお城がありました。

時は室町時代、この地は宇都宮領の最前線にあり、北条氏との境界を守る重要な軍事拠点として、その役割を担っていました。山頂の主郭を中心として四方の尾根に、土塁や堀、石垣などで囲まれた曲輪を配置し、その姿はまるで鶴が翼を広げた形に見える

城技術が用いられた、戦国時代末期の最高レベルの山城だったようです。令和6年10月、西方城跡は国の史跡に指定されました。今では土塁石積みを残すばかりとなつていますが、730年以上前の姿がそのまま残っており、そこに歴史的価値があります。本丸からは、雪の日光連山や関東平野が一望でき、先人達が眺めた景色と重ね思いを馳せると、その生き様を感じずにはいられません。



屈曲する進入路



あなたも一度この地に立ってみませんか？

広報委員…神永 晴美

藤岡文化団体連絡協議会

わたらせ寄席開催される

10月30日(木)、藤岡文化会館において、栃木市ふるさと大使の春風亭柳橋師匠・古今亭志ん丸師匠を招いて、栃木市主催・藤岡文化団体連絡協議会も協力してわたらせ寄席が開催されました。

当日会場は一般応募の市民と藤岡中学校の皆さんで埋め尽くされ盛大に開催されました。

はじめに両師匠より中学生の落語指導が行われ6人の中学生が臆することなく、個性を発揮しながら堂々と演じた姿に感動した会場からは沢山の拍手がおこりました。



続いて両師匠により「初天神」「転失気」の落語が演ぜられ、会場の笑いをさそっていました。



近ごろ古典芸能に触れる機会が少ない折、このような形で若い世代と共に開催できたことは文化の継承に少しでもつながるかとの期待がふくらみました。

文…五月女政子
広報委員…坂本まち子

都賀文化協会

都賀文化祭と創立50周年記念会

本年度は待望の都賀総合支所が完成しました。

1階のフロアーには、図書館や総合支所、広いロビーの中央にはエレベーターもあり高齢者や身体の不自由な人、本場に助かります。

2階の公民館には大中小の会議室の他、広々とした休憩スペースや約300席ぐらいとれる多目的室があり、各団体思い思いの活動を展開しています。

新しい公民館で、11月8日(土)から23日(日)迄の期間、都賀文化祭での各部門(「展示」、「芸能」、「音楽」、「歌謡」)の発表が盛大に行われ無事終了しました。

特に歌謡部に於いては、お昼休みの短い時間を使ってチャリティ歌謡ショーを試みました。キングレコードの南由希さんに歌っていただき、募金された全てを施設の方に寄付しました。

また、12月7日(日)には、都賀文化協会が設立されてから50周年を祝う記念事業を開催しました。記念式典の他、記念公演として栃木市ふるさと大使三人会(桂小南師匠、春風亭

岩舟文化協会

岩舟文化祭

今年度の文化祭は、10月25日(土)・26日(日)に開催されました。

公民館では、園児の作品、小中学生による作品展示のほか書道、絵手紙、陶芸、染物、折り紙など素晴らしい作品が展示され、文化会館では、写真、パッチワーク、手芸、編物、けやきの家やシルバー大OBによる素敵な作品が展示されました。



演芸大会は、2日間にわたり文化会館で開催されました。初日の演目は、カラオケ、二胡、舞踊、オカリナ、吟詠、詩舞、ハーモニカ、手話ダンスなどの発表があり、日頃の練習の成果が披露されました。

2日目は、郷土芸能4団体の力強い演奏のほか、ジャズダンス、ダンス、尺八、オカリナ、フラメンコ、民謡、ちんどん、社交ダンスなど多彩な演目での発表があり、出演者の



柳橋師匠、古今亭志ん丸師匠)による落語、松山うめ吉様の俗曲、ひまわり律子様のマジックを披露していただき、会員皆で大変貴重な時間を過ごすことができました。

都賀文化協会は新しい50年に向かって前進していきます。

広報委員…中村勝海



熱演、熱唱に、会場から大きな拍手がありました。

最後に、いわふねスボーツクラブによるキッズダンスが演じられ会場が大いに盛り上がりフィナーレとなりました。

今年の文化祭は小雨降る中での開催となりましたが、会員や協力団体の皆様の熱意あるご参加ご協力により、盛会に開催されました。



広報委員…小林 俊夫